

編集後記

夏の異常低温、それに伴う米の凶作、更には、暮れも押し迫って米市場の開放と社会が大揺れを来した、平成5年も終わろうとしています。会員の皆様にとりましては、どのような年でありましたでしょうか。

18 卷には大阪大学教授鈴木先生の特別寄稿、総説、大学院生の学位論文、原著論文、症例報告、臨床一口メモと非常に多彩な論文を、お寄せ頂き、内容の豊かな学会誌であったと思われます。ぜひ、今後とも沢山の投稿をお待ちしています。

この頃、“生きているということ”をマクロな生き物の多様性に求めていく学問のスタイルが、生命活動を担うミクロな実体に還元してゆくというスタイルに転換し、生物学が生物科学に変貌しつつあると云われています。生物体の分業と制御のメカニズムを明らかにすることにより、確かに“生命そのもの

の起源”を解明する目標には近づけても、生物の多様性について解明するにあたっては、過ちを犯す危険性があります。進化は一本の糸の上のっているのではなく、幾つもの反応系列があり、そのなかの一つだけが選択された結果であり、なぜこの系列が選ばれたのかは、残った系列だけをみてもわからないと思われます。

歴史の上に“もし”は在りませんが、多くの選択肢の中から一つを選らび出すに際しては、後世に禍根を残さないように、じっくりと選ぶ必要があります。バイオテクノロジーが進歩し、遺伝子操作が行なえるようになったことで、我々の生命観までもが変わりつつあるときに、一つを選択する時には今迄以上に心して掛らなければならないと思います。

(野坂 記)

岩手医科大学歯学雑誌

第18巻 第3号

平成5年12月25日 印刷

平成5年12月30日 発行

発行人 鈴木 隆

発行所 岩手医科大学歯学会

盛岡市中央通1-3-27

岩手医科大学歯学部内

振替口座 盛岡 1358

電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社

盛岡市本町通2-13-8